

地元地域での営農状況についてのアンケートの実施、朗読力確保のためのHPやSNSの開設、チラシや広報誌など紙媒体などでも広報手段の設立は完了している。また就農プログラムの策定についてもハープについては一定の作業分析を完了し、各作業において働きにくさを除去する検討を進めている。また地元地域での就農プログラムの体験を進めるための協力圃場の確保も2か所できた。

ただ、今年度は各事業についてコロナ禍により開催回数が少なかったため、来年度は開催を進めることで事業の精度を上げていく。

事業実施主体構成員

公益財団法人喝破道場		
同上 理事長	同左	コーディネーター
同上 自立塾塾長	同左	事務局
同上 就農プログラム担当	同左	事務局補佐

実績値 (目標値)

- ①労働力受入担い手農家数：実績値 (目標値) 2(5)
- ②労働環境に満足している被雇用者の満足度：実績値 (目標値)

令和3年度取組み内容

今年度の取組み内容	課題	次年度の計画
ア 労働力の需給状況の把握 (地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・2022年1月12日まで、JA香川県の柑橘部会を対象に営農状況に関する調査を実施。(31/200経営体回答) ・後継者不足を含め、81%が「労働力が不足している」と回答しており、働きづらさを抱えた人の受け入れについても、半数が「できる」「支援があればできる」「検討可能」との回答があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート期間が年末・年始と重なったこともあり、アンケートの件数が少なかったため、実態を反映しきれていない可能性があった。また対象は農家自身であったため、営農課題が労働力不足であると認識していない可能性もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の営農状況を俯瞰的・客観的に判断できる農業委員へアンケート・ヒアリングの実施 ・地域では働きづらさを抱えた人の雇用例もあることから営農者アンケートの結果を踏まえての支援団体へのアンケートも企画していく。 ・地元地域での就農希望者や農地継承、新規就農などに対する支援体制の確認
イ 労働力の確保・育成 (情報発信等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・HPの開設 ・SNS(Facebook、Instagram)発信 ・11月より開花塾プロジェクトだより 喝破道場関係50ヶ所送付 ・開花塾プロジェクト通信(創刊号～3号) JA香川県関係・福祉関係・50ヶ所送付 ・食のワークショップの開催(12/21) ・働きづらさを抱えた人の就農を語る座談会2回(1/22・1/30) ・農福連携啓発パネル展を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの活用方法 ・開花塾プロジェクト通信の配布先の拡大 ・イベントを通して、開花塾プロジェクトに関心を持ってもらうようにする。 ・農家啓発用動画の活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・のぼりや看板などを下笠居地区に設置して、広く多くの人に認知してもらうようにする。 ・農福連携啓発パネル展を開催。

今年度の取組み内容	課題	次年度の計画
ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化		
<ul style="list-style-type: none">データベース化については、現在策定中の就農プログラムの作業分析の中での求職者の属性把握のための評価項目設定を予定している。	<ul style="list-style-type: none">コロナ禍の状況も重なり、労働力確保につながる体験事業の実施が難しかった。 そのため柑橘系の作業分析が進まなかったこともあり、2月末にひと段落する主にハーブや一般野菜などについての作業分析による暫定的な項目設定となる見込み。	<ul style="list-style-type: none">体験事業を可能な限り増やしていくことで、プロジェクトに関わる求職者を増やし、次年度半ばをめどとして属性把握のためのデータベース項目を確定していきたい。
エ 農業の「働き方改革」への取組み（課題調査及びセミナー開催等）		
<ul style="list-style-type: none">●●を対象とした労務管理セミナーを開催。 (R3●回)...		
オ 他産地・他産業との連携による労働力確保		

今年度の取組み内容	課題	次年度の計画
カ 受入段階の計画（中核人材の確保・関係者の理解促進の取組み）		
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の農業委員、民生委員、高松市社協の地域担当者との協議の中でも、当事者支援だけではなく、地元農家の支援にもつながるという意識を持った言動も見られ始めていることから、受け入れ農家へのスムーズな繋がりづくりにおいて、各担当者の役割づくりの確定を進めたい。 ・高松市の「人・農地プラン」の内容確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、平生からの地域営農者、中間報告会などでの関係者への積極的な働きかけができにくかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・働きづらさを抱えた人の地元地域での雇用例もできてきていることから、次年度半ばをめどとして体験事業への協力や営農者への説明回数を増やす。 ・また高松市の「人・農地プラン」の内容も検討しながら地域団体でのプロジェクトへの協力体制を確立する。
キ 就農支援の計画（農業体験、研修、受入農業者に対する研修の実施）		
<ul style="list-style-type: none"> ・協力農家の圃場を使用して、柑橘果実の袋掛け体験を実施済み。 ・獣害対策への体験、柑橘苗木の植え付け体験 ・農福連携の先進的な取り組みをしている営農者への見学バスツアー実施 ・自立塾生のハーブ園での農作業実態調査 <p><働きづらさを抱えた人を対象に></p> <ul style="list-style-type: none"> ・柑橘農家での袋掛け作業体験 ・柑橘の苗木の植え付け研修 ・柑橘圃場の獣害対策作業体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、地元農家での体験事業や地元営農者への研修事業が進まなかった。 ・ハーブ園での作業実態調査データがまだ少ない ・柑橘圃場での作業実態調査ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに雇用されている当事者などの状況を参考にしながらの研修コンテンツ作成。 ・柑橘類の摘果・剪定方法の研修など特性に応じた技術習得研修 ・ハーブ園での農作業実態調査（継続） ・柑橘圃場での農作業実態調査（新規） <p><働きづらさを抱えた人を対象に></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハーブ園や柑橘圃場での収穫体験 ・ハーブ園での苗植え付け体験 ・圃場の除草体験 ・導入研修（動機づけ他） ・柑橘類の摘果や選定方法の研修 <p><受入農業者に対して></p> <ul style="list-style-type: none"> ・”働きづらさを抱えた人”の受入に当たっての対応の仕方（仮称）の講習会
ク 定着支援の計画（中間就労の仕組み作り・就農、定着支援に向けたサポート）		
<ul style="list-style-type: none"> ・行政の福祉・地域担当課、高松市社協、地区社協の担当者、民生委員、地区コミュニティ協議会などの担当者と企画中 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍もあり、地元地域で検討会などを開催することができなかつた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の地元団体との協働に加え、カウンセラーなども交えながら、当事者団体のジョブコーチを兼ねる就業担当者なども巻き込んだ、就農仲介体制・団体の設立